

# 「議場に女性を」道半ば

## 参院選九州7選挙区 当選ゼロ



女性政治リーダーを育てる合宿で、市長選の戦略を発表する参加者たち =3日、京都市

# 積極的な擁立が課題

参院選では、女性の当選者が計35人と過去最多となった。それでも全体に占める割合は3割に届かない。九州では7選挙区に計16人の女性が立候補したが、全員が落選。「政治分野の男女共同参画推進法」の成立から4年、法律が掲げる「均等」はまだ遠い。



## 候補育てる「合宿」も

「今の選挙の戦い方は女性にはハードルが高い」。福岡選挙区で落選した大田京子さん(43)は時間の壁を痛感した。街頭演説などは朝8時から夜8時までだが、実質の選挙運動はほぼ休みなし。自身は家族の支えもあり走り抜いたが「例えば午前9時から午後5時にしたら、幼い子どもがいるひとり親でも手を挙げやすくなる」。

2015年から今年5月まで福岡県議を務めた。母親でもある大田さんは有権者から「子どもはどうしてるの?」と問われることもあった。男性には言わない言葉に「子育ては女性の仕事」という性別役割分業意識がにじむ。それが女性の出馬を阻む壁になっているとも感じている。

今回、九州では7選挙区全てに女性が1人以上立候補したが、そもそも候補者全体に占める割合は33.3%にとどまった。

特に、政治分野のジェンダー平等が遅れている。そんな危機感を背景に、政治を志す女性の背中を押す取り組みも進んでいる。「選挙をどう戦うか、作戦を立てて市長を目指しましょう」。1日、京都市のホテルに全国から女性16人が集まった。2泊3日の合宿で、選挙を勝ち抜くノウハウを学ぶ。

参加者は4人一組のチームに分かれ、候補者、広報、会計など役割分担しながら実践的な戦略を練った。「福岡県久留米市の市長選」を想定したチームは、子育て世帯や単身者の票を狙って「久留米が動き出す」をスローガンに就労機会の創出を掲げる作戦を描いた。講師陣からは「(多額の)カンパをどこから集めるのか」「打ち出す政策と自分の経験を一致させて」といった現実的な指摘が飛び交った。

奈良県から参加した女性(47)は「選挙に勝つには自分の熱意だけでなく、戦略と仲間が必要だとよく分かった」と振り返った。

主催したのは一般社団法人「パリティ・アカデミー」。女性の政治リーダーを養成しようとして、上智大の三浦まり教授(政治学)らが18年に立ち上げた。これまでに参院選や地方議員選などに17人が立候補し、9人が当選を果たした。共同代表でお茶の水女子大の申琪

と呼びかける。

(斉藤幸奈)

## 女性当選 最多35人

全国、当選率は19.3%

参院選での女性の当選者は35人で、2016年、19年の28人を上回り過去最多だった。選挙区21人、比例代表14人で、当選者全体に占める割合も28.0%と過去最高となった。

ただ、候補者が181人と大幅に増えたため、当選率は19.3%にとどまり、過去2回を下回った。男性の24.7%より低かった。

候補者に占める女性の割合が最も高かったのは共産党の55.2%、立憲民主党が51.0%で続いた。両党とも当選者の割合も半数以上だった。国民民主党は候補者、当選者とも女性が4割に上った。

一方で現職議員が多い与党は女性候補者の割合が低く、自民党は23.2%、公明党は20.8%。自民は最多の13人が当選したが、当選者に占める女性割合は2割にとどまった。

### 党派別当選者・立候補者に占める女性割合

党派名	当選者合計	うち女性(割合%)	立候補者に占める女性の割合
自民	63	13 (20.6)	23.2%
公明	13	2 (15.4)	20.8
立民	17	9 (52.9)	51.0
維新	12	3 (25.0)	30.4
国民	5	2 (40.0)	40.9
共産	4	2 (50.0)	55.2
社民	1	1 (100)	41.7
無所属	5	3 (60.0)	34.3
合計	125	35 (28.0)	33.2

※れいわ新選組、NHK党、参政党は女性の当選者ゼロ